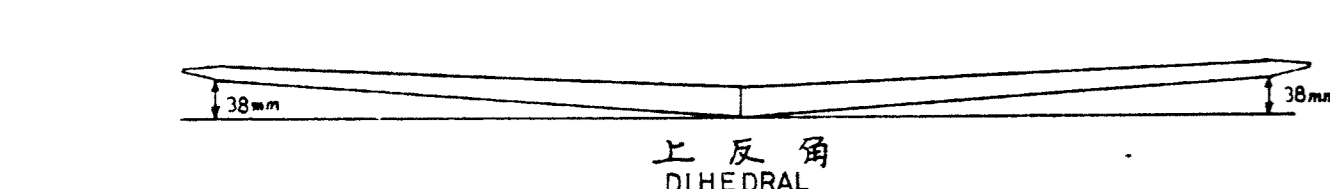
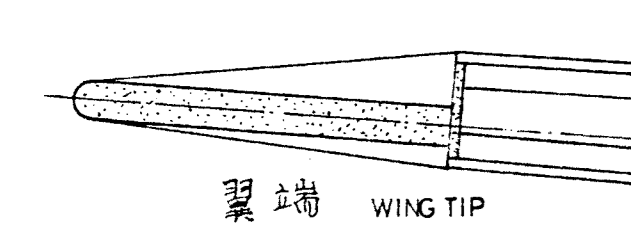
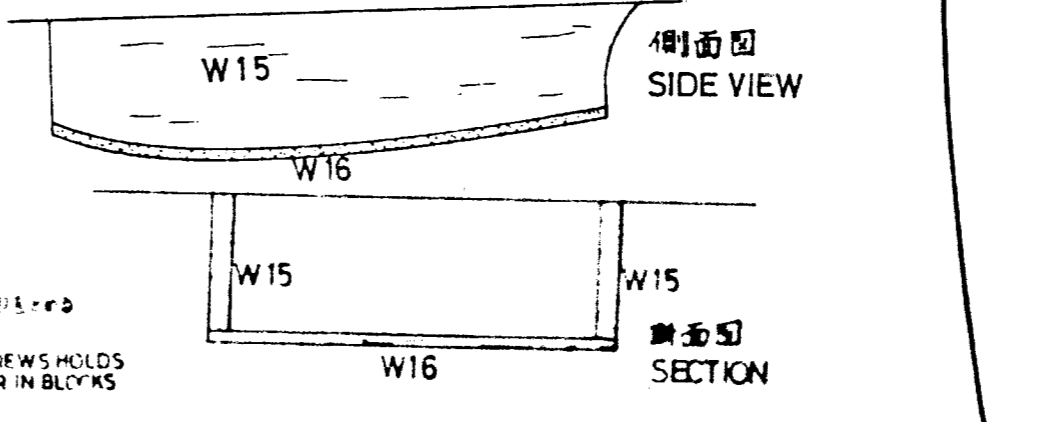
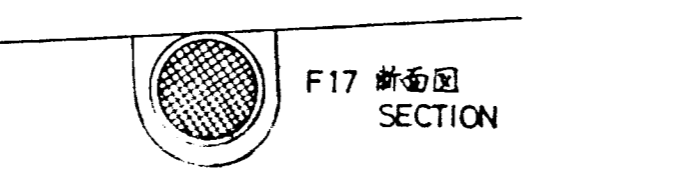
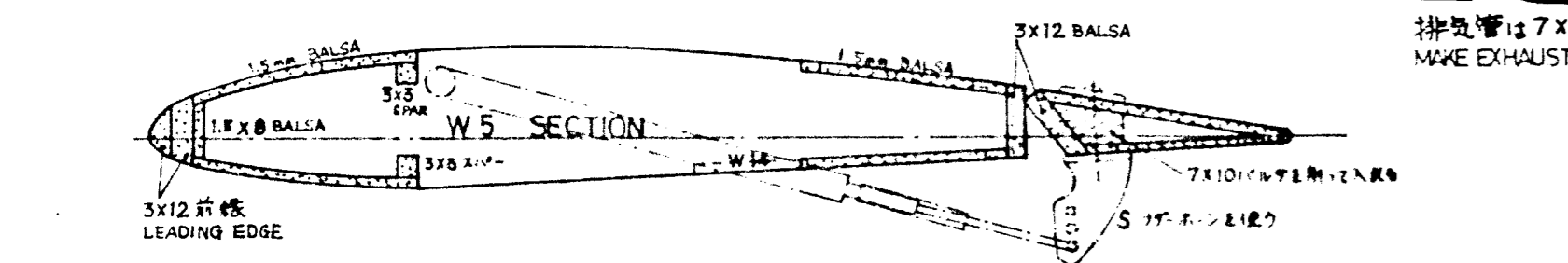
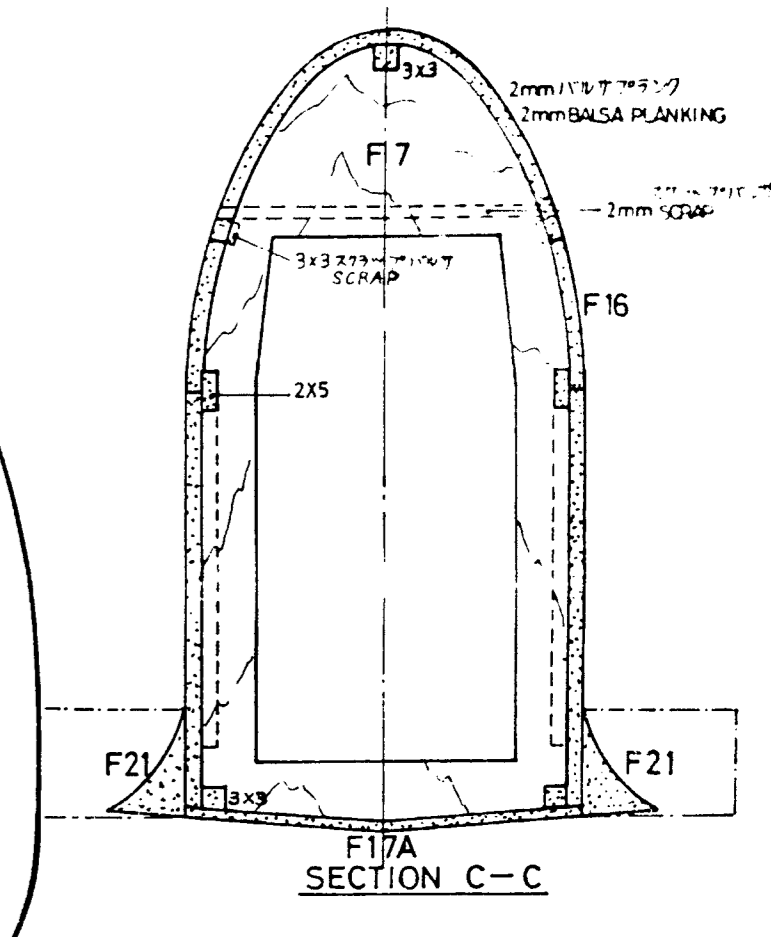
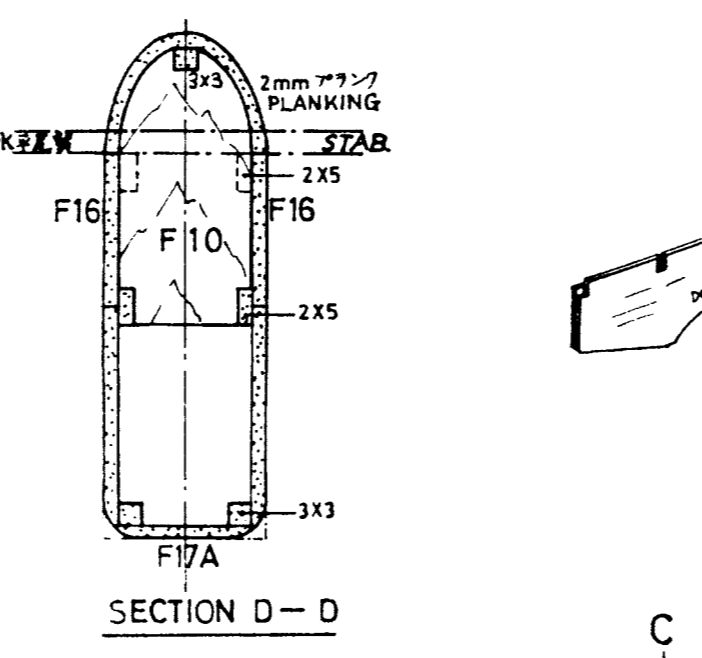
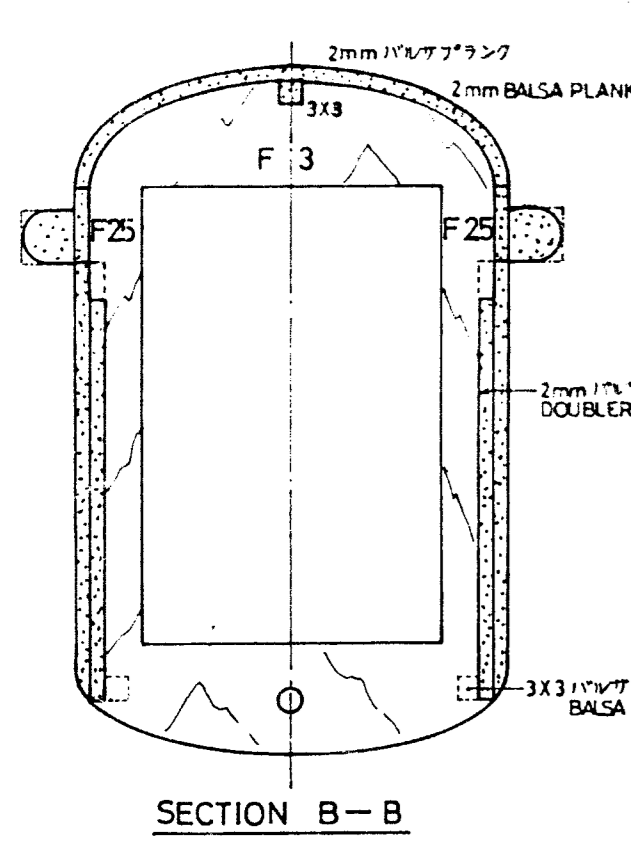
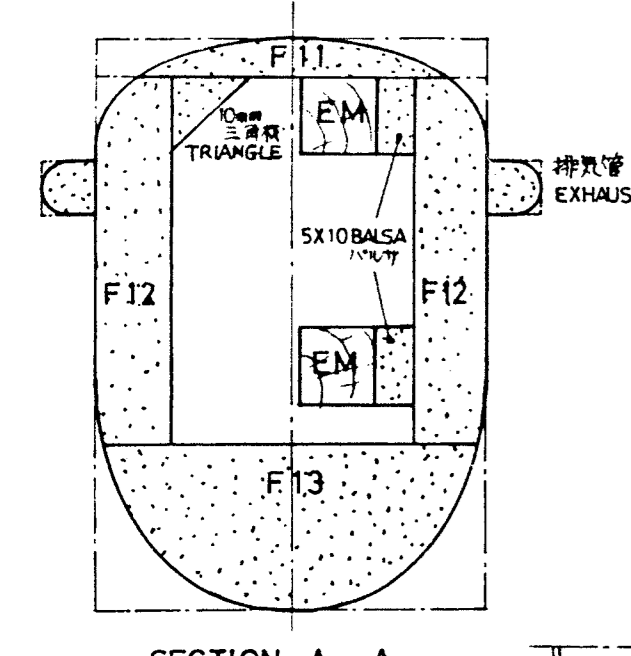
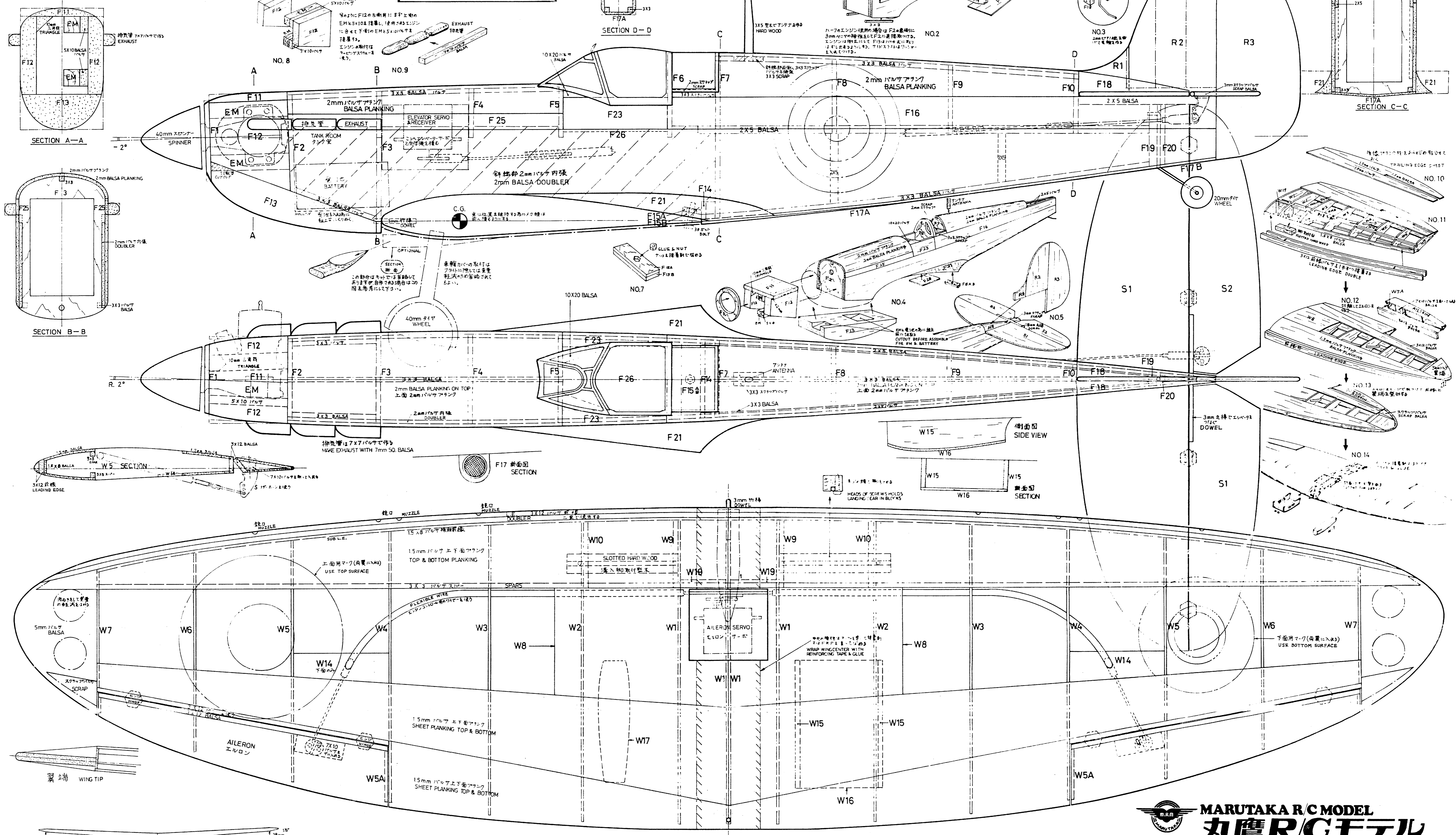


1/2A SUPERMARINE SPITFIRE MK.I

スピットファイア

TECHNICAL DATA		
全長	FUSELAGE	690mm
全幅	WING SPAN	900mm
主翼面積	WING AREA	14.3dm ²
重量	WEIGHT	800-1000g
エンジン	ENGINE	049-10
ラジオ	RADIO	2-3 CH.
エンジン09-10, ラジオ4 CH. 小型サーボにて使用可能		



スピットファイアー MK-1

START ASSEMBLING AFTER REFERING
THE DIE CUT BALSA AND PLYWOOD
PARTS TO THE NUMBER ON THE PLANS.

BEFORE STARTING BUILDING

For better finish and flight performance, take time in reading building instruction and refering to the plans, and assemble in good order and correctly and carefully.

Cut off each part with cutter or razor blade avoiding damage, particularly on the jointing cut out and slot.

If necessary trim the parts for easier fitting. When cementing use thread, rubber band, pins, clothes clips etc.

Until cement sets for forming and working, cutter, balsa plane and/or file are to be used. Wood tip wrapped with sand paper can also be used as a file.

バルサ及びベニヤの抜型材を図面の番号と照合したのち組み立てて下さい。

製作まえに

よりよい仕上がりと言の機能を発揮させるために、説明や図をよく読み、よく見て、順序よくていねいに正しく組み立てて下さい。

各部品は傷つけないようにカッターや小刀で切りはなし、組み合せ部分の切り込みやミソなどは正確に切り取って無理なく組み合うように整形します。接合部には接着剤をつけ、釘・虫ピン・クリップ(先たくバサミ)・糸・ゴムバンド・細い針金で仮り止めし、接着剤が完全に硬化したら、これらはすべて取り除きます。木部の加工や整形はカンナや小刀・ヤスリなどを使いますが、木片にサンドペーパーを巻くとヤスリと同じに使うことができます。

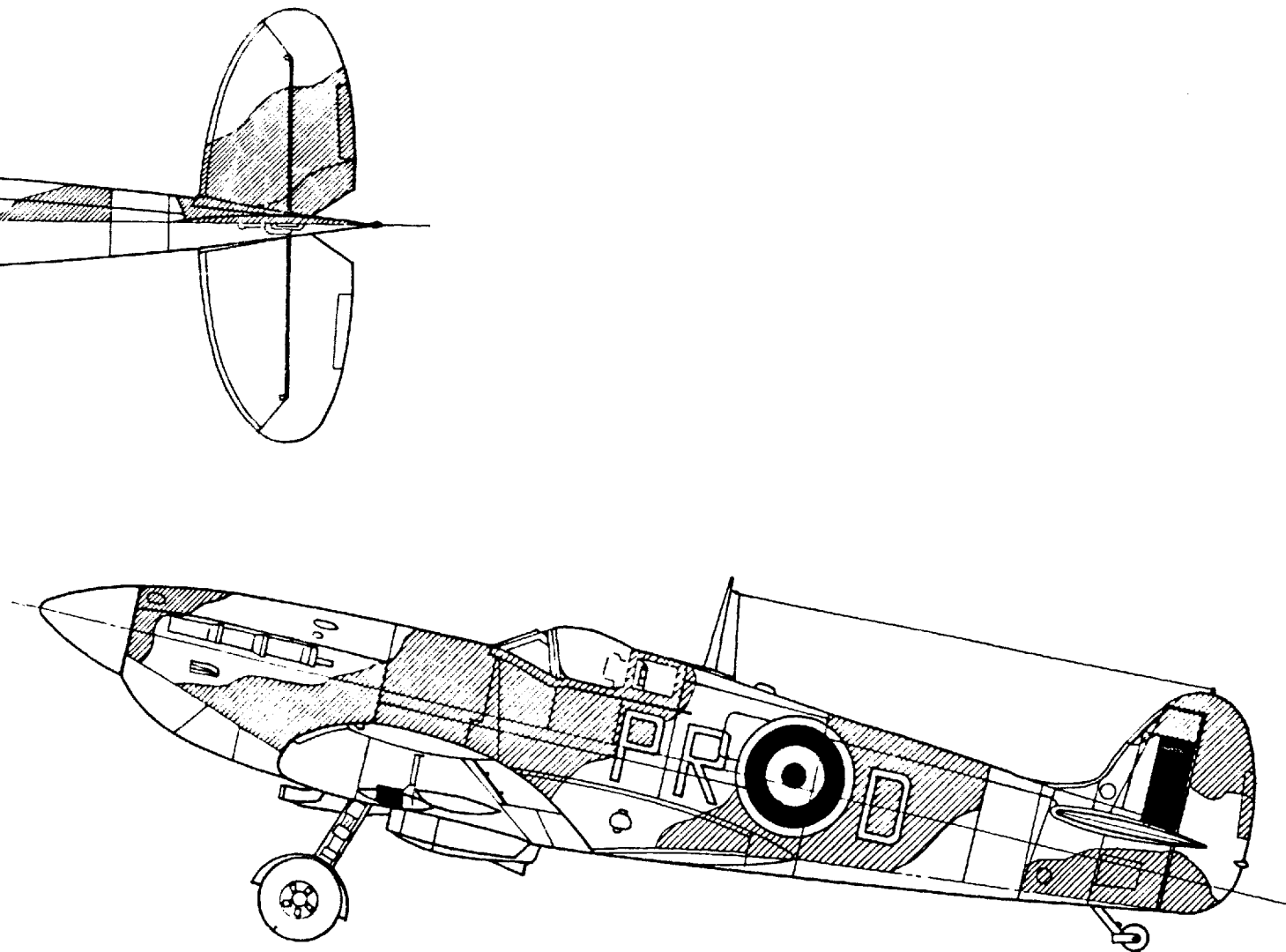
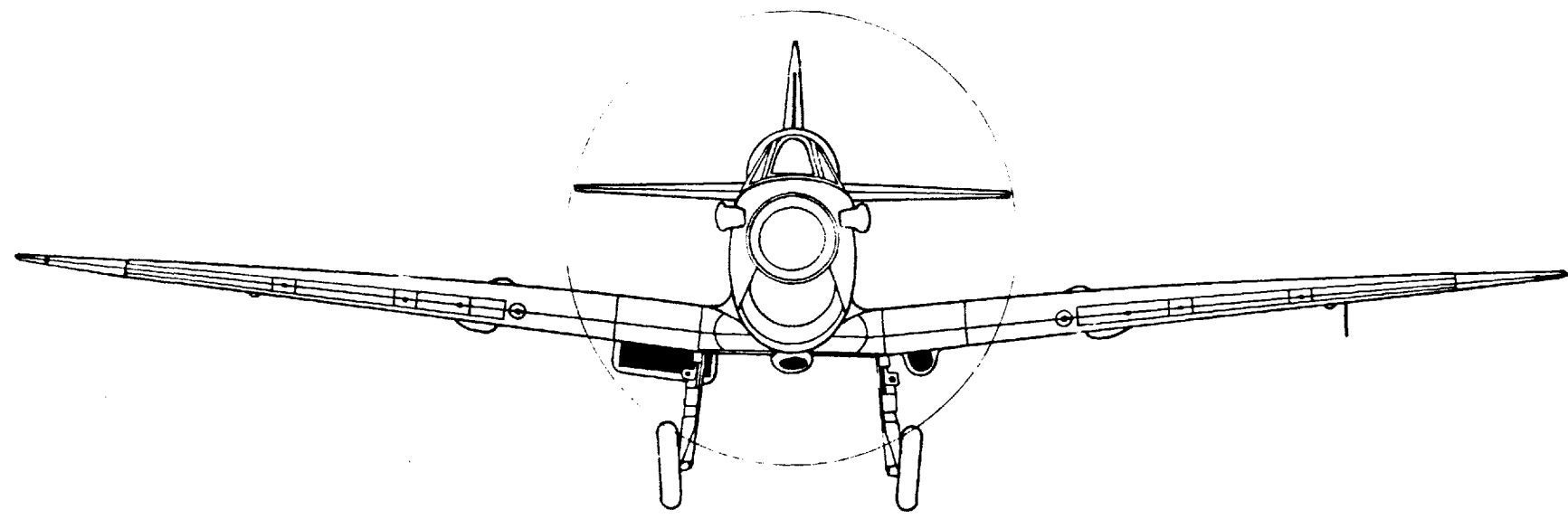
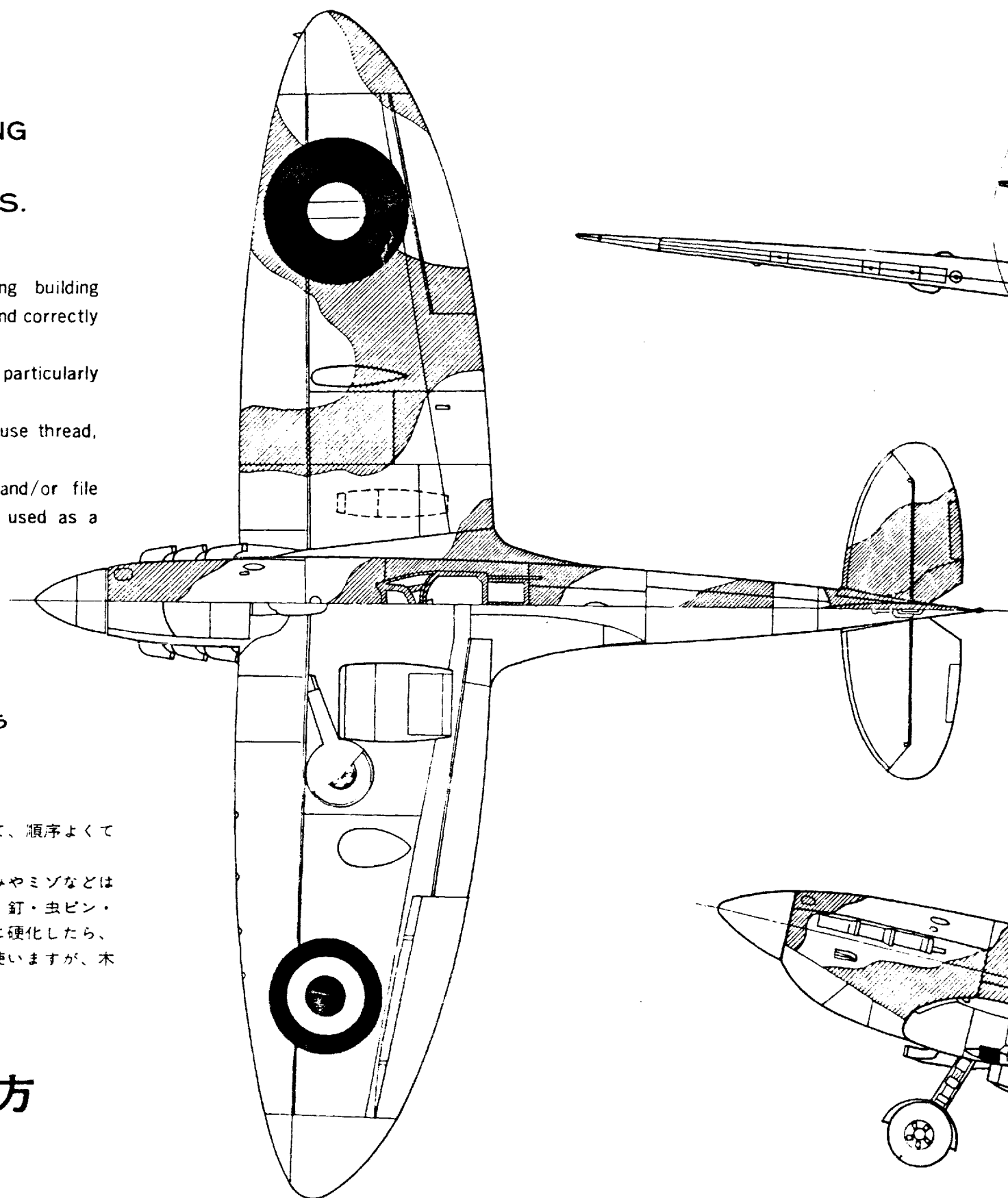
1/2A スピットファイアーの作り方 (SPITFIRE Mk. I)

■胴体

1. No.1図の通り側板に内張、2×5バルサ、3×3バルサを貼っておく。同じ側ばかりを作らない様注意。水平・垂直尾翼も作る(No.5参照)
2. No.2図を参照。
出来た側板と胴枠とを接着、F8~F10の位置は図面から印す。上部に3×3バルサを入れ、アンテナ部は左右から3×3バルサで補強しておく。
3. No.3図で示す通り、尾輪を作り、F19、F20にエポキシ接着
4. No.2図で示す通り、F25、F16を接着、F16の水平尾翼取付部に2×5バルサを内側に貼る(No.4参照)。
5. 尾輪を接着する。No.2、No.3を参照。
6. F14及びF17A、F17Bを接着する(No.2参照)。
7. F2、F3の間の側板の下端に3×3バルサを内側へ貼る(No.2参照)。
8. 上面に2mmバルサをブランクする(No.4参照)。
2×80バルサを細く切ってブランクをしてもよいのですが、出来れば一枚板でブランクすると、きれいに仕上がります。その要領は外面になる側へ湿めらす程度に水をぬり、胴枠に合せて曲げくせをつけ、それから接着剤をつけてブランクします。
9. 操縦席サイドのF23及びその上に10×20×30バルサを接着して整形する(No.4参照)。
10. 操縦席のすぐ後はF16の上に3×3スクラップバルサを接着し、その上に2mm又は1.5mmのスクラップバルサを貼って作る(No.4参照)。
11. F15AとBを貼合せ、F15Aにはナットを接着剤で着ける(No.7参照)。そして、F14と側板とに接着、F26をF23の下面へ接着する(No.4参照)。

■仕上げ(塗装)

このクラスの機体では塗装の良否が飛行に大きく左右しますので、出来るだけ軽く、あっさり塗るようにして下さい。又、塗り過ぎによるテールヘビーにも充分注意して下さい。仕上げには色々な方法がありますが、一般的なラッカー仕上げを述べてみます。まず出来上がった生地に、クリヤラッカーを約3倍に薄めて、表面のザラを落しながら、やや光る程度に塗り増してゆきます。そしてシンナーで紙を貼りますが翼の空間部分だけは絹を貼って下さい。完全に乾いてから今度は5~6倍に薄めたクリヤラッカーを塗り増してゆきながら互後に150番ぐらいのペーパーで表面のザラを落して下さい。表面がやや光ってきたら下地を薄く塗ります。乾燥後300番前後の耐水ペーパーで表面を出し、グレーか白で1~2回下塗りします。それから自分の好みの色を塗ってゆきますが、プラカラー等を使うと色の種類も豊富で割合簡単に、機体に合った塗装が出来るのではないかと思います。そして最後に耐グローを塗れば出来上りです。出来るだけ軽く仕上げるため各工程の塗りは少なめにしよう心がけて下さい。又、カウリングのある機体は、あらかじめ400番前後のペーパーで表面を荒しておく塗後剥離しにくくなります。最初からドーブ又はビニローゼ等で仕上げると、耐グローの必要も要りませんので軽く仕上がります。一番軽く仕上がるのはフィルムやモノコート仕上げですが、曲面が多い機体は少し難しいかもしれません。根気よくていねいに被覆してゆけば、外観も塗装に比べて大差はなくなります。



■主翼

1. 後縁ブランク材を貼合せておく(No.10参照)。
2. 図面よりスパー及び後縁ブランク材にリブの位置を印し、片翼ずつ作る。
3. まず後縁ブランク材の下面用に、中央のW1リブを除く他のリブを接着する、そして上下スパーを入れ、W19と中央のW1を接着、そして後縁上面ブランクをする、それから1.5×8の前縁を接着する(No.11参照)。
4. W9、W10及び脚取付台を接着(No.11参照)。
5. W14を接着してエルロン用のロッドをセットしておく、これはエンジンコントロール用のワイヤーを使用するとよい。市販されているフレキシブルロッドでは、曲げ方がきついと動きがかたくなるので(No.11参照)。
6. エルロン部を切離してNo.12図、及びW5断面図を参照してエルロンを作る。出来たエルロンをヒンジで取付ける。
7. 翼端を接着して前縁ブランクをする。
8. 前縁のブランクは、3×12バルサ前縁を先に接着してからでもよいのですが、出来ればブランクを先にして、それから前縁材を接着する方が接合面がきれいに出来ます。
9. W8を接着。
10. 翼端にスクラップバルサを貼り、前縁及び翼端を整形する(No.13参照)。そして翼端は肉めきをしておきましょう。
11. 左右の翼をまず接着剤でつけ、それから布テープと接着剤(エポキシがよい)で固めて補強します。
12. 翼下面のラジエーター等を取付ける。No.14図に示す通り、左右取付を間違えないこと。
13. 中央部上面ブランク及びリブを切取ってサーボ室を作る。

12. No.8図の通り、F12(左側用の)にEM及び5×10バルサをエンジンの幅に合わせて接着。右側用のF12には10mmの三角バルサを接着する。
 13. F12とF11を貼合せ(No.4参照)。
 14. F2に燃料パイプを通す穴をあける。そして13で出来た機首部を胴体に接着する。
 15. F13を接着する前に、EM及び電池室の為の切取りをして置き、それから接着する。
F1の接着は、胴体の側面図・平面図よりその接着位置を確かめて行って下さい。F1接着後、機首を削って仕上げる。
 16. フイレットF21はあらかじめ削ってから接着するとよい。
 17. 水平尾翼及び垂直尾翼を取付ける。胴体に水平尾翼を接着する時、エレベーターをつないでいる3mmの丸棒には、接着剤がつかないように注意して下さい(No.5参照)。
 18. 7×7バルサで排気管を作る(No.9参照)。
3×5ヒノキ棒でアンテナ柱を削る。
 19. キャンピーは本塗装をされる場合は、内部を先に塗ってから取付けて、透明で残して置く部分をラッカーテープで覆って下さい。そして下地に入って下さい。
- フライトする場合は09~10クラスのエンジンでないとパワー不足がみですので、本キットのエンジンマウントは、そのクラスのエンジンを取付けられることを前提として設計してあります。又、そのエンジンを止める方法は3mmのタッピングネジで締めるようにします。その場合ネジの下穴は2.5φぐらいが適当でしょう。それ以上太い穴をあけられますとネジが効かなくなります。
- もちろん、049~051のエンジンも取付けられますので、No.2図の説明文を参照して下さい。

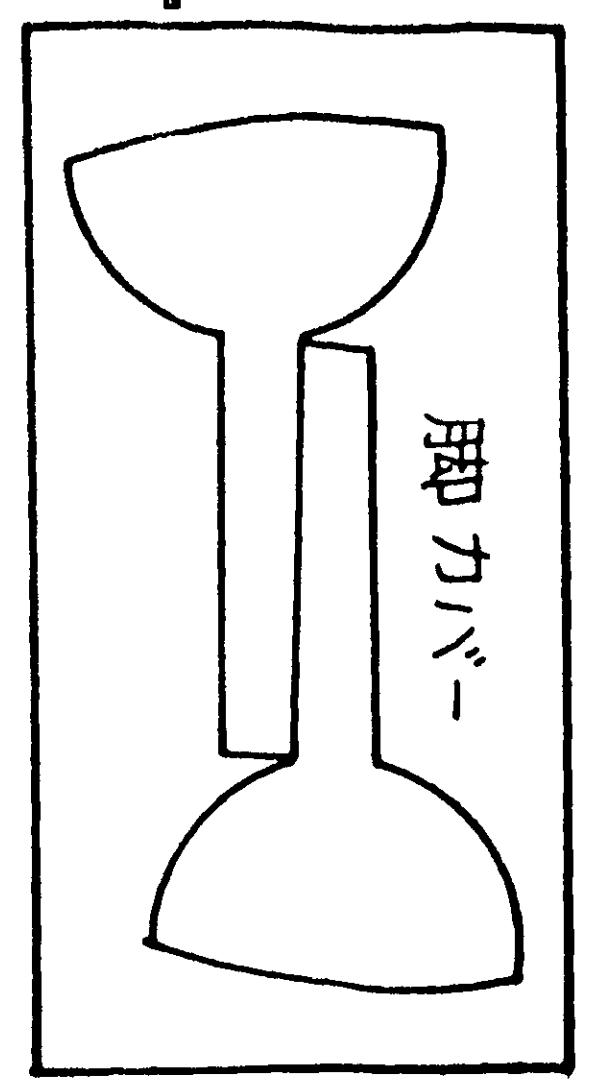
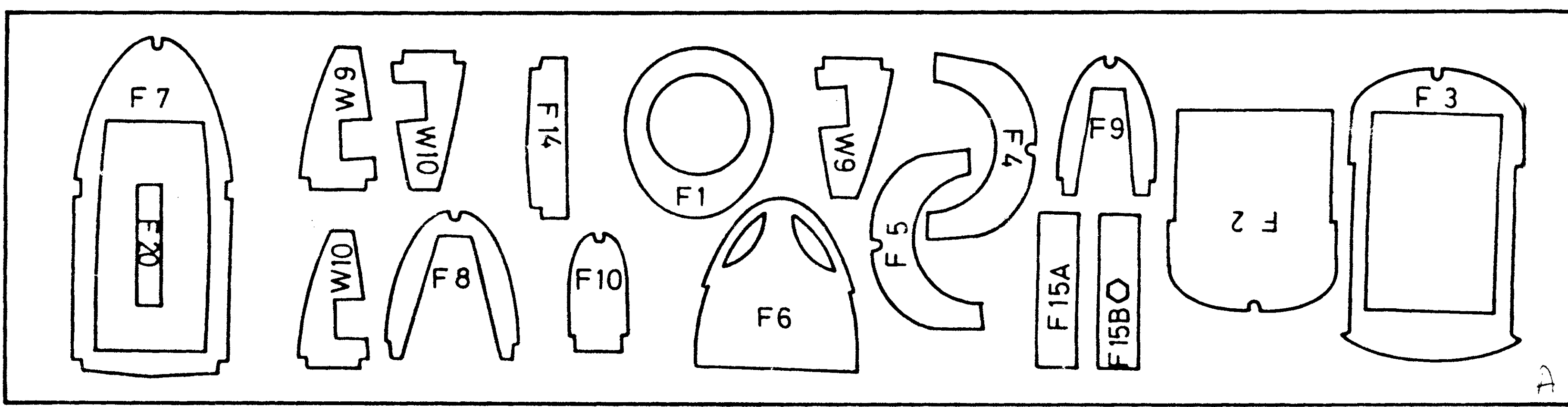
■フライト前の注意事項

メカ類の積込みは出来る限り、機体の前部へセットして重心を必ず図面の位置へ合わせて下さい。機体の仕上がり状況や、エンジン等の重量によってはテールヘビーになり、おもりの要る場合が有りますが、重心はあくまでもメカ類で調整し、おもりは最低限度におさえて下さい。

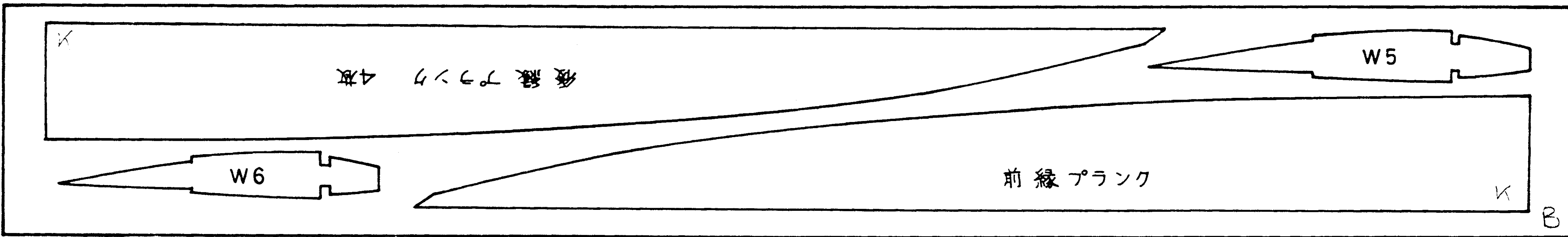
総重量は049~06クラスで800gまで、それ以上の場合は09~10が適当です。又、脚は車輪が前縁より前へ出るくらいにセットするとよい。このクラスは、手投発進が主ですが、エンジン出力のある場合は離陸も容易です。
翼端エルロンに付10°~15°に舵角をセットして下さい。

3mm PLYWOOD ベニヤ (x1)

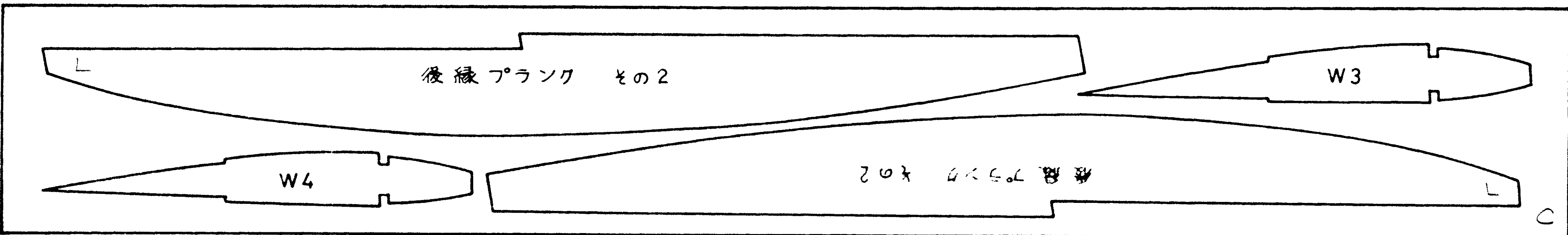
1.5mm PLYWOOD ベニヤ (x1)



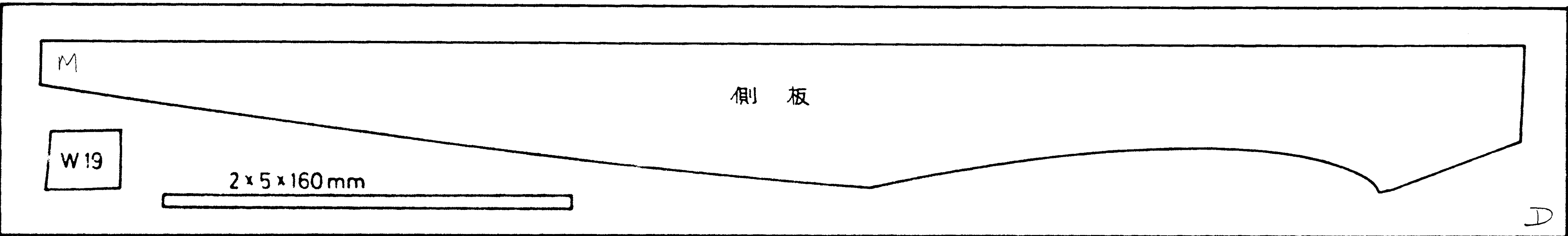
1.5mm BALSA バルサ (x2) ✓



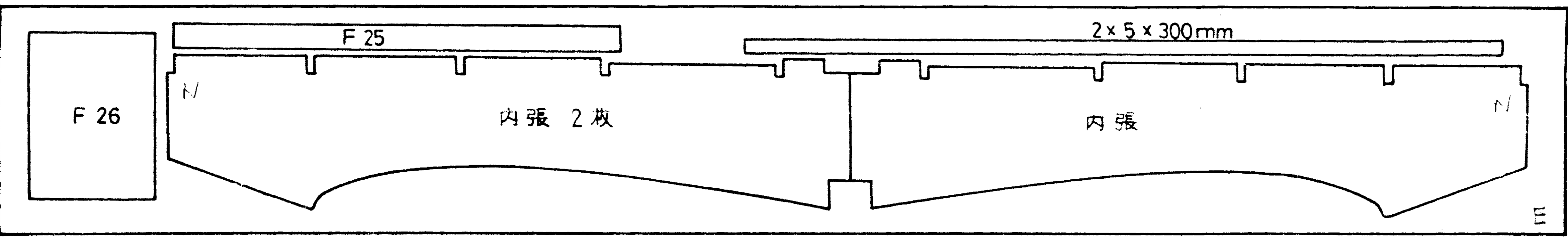
1.5mm BALSA バルサ (x2) ✓



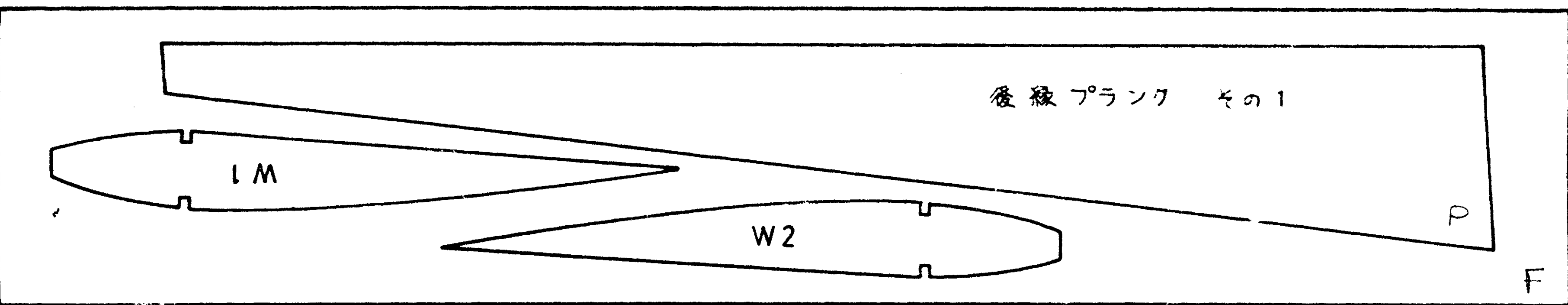
2mm BALSA バルサ (x2) ✓



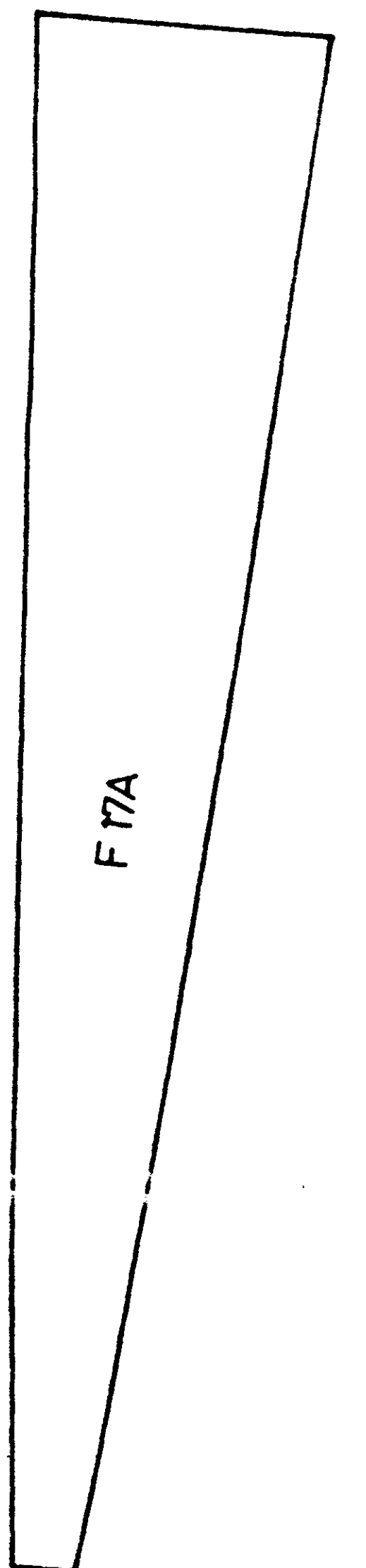
2mm BALSA バルサ (x1) ✓



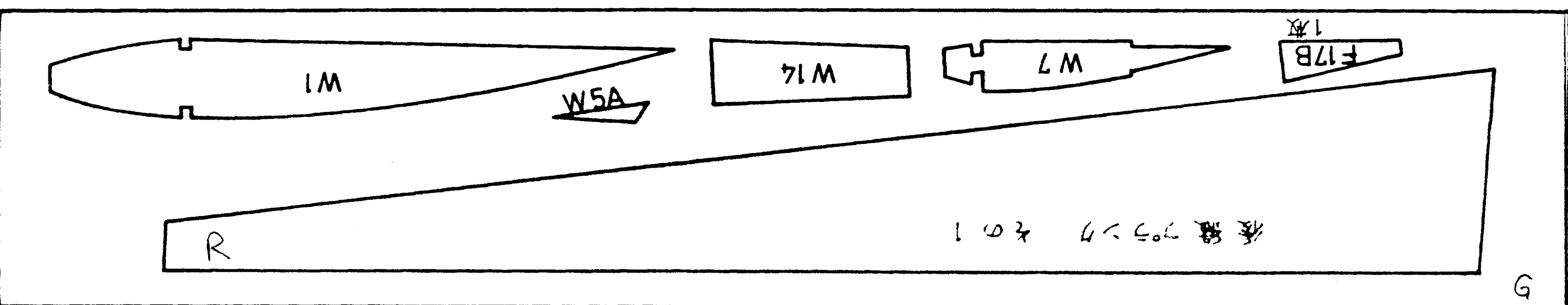
1.5mm BALSA バルサ (x2) ✓



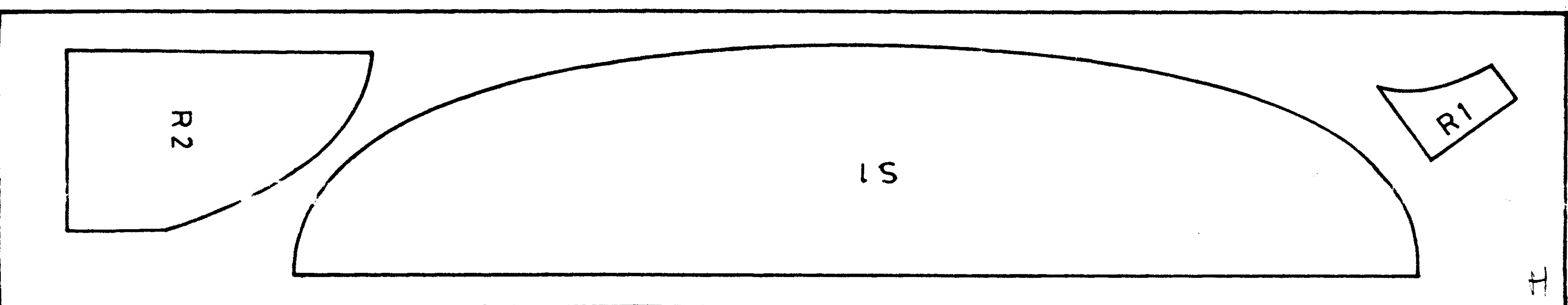
1.5mm BALSA バルサ (x1) ✓



1.5mm BALSA バルサ (x2) ✓



3mm BALSA バルサ (x1) ✓



3mm BALSA バルサ (x1) ✓

